

研究者紹介

言語政策研究におけるビョルン＝ホルガー・イェルヌッド氏の貢献

英語圏における学問分野としての言語政策研究の立ち上げに関わり、言語管理理論の提唱者の一人でもあるビョルン＝ホルガー・イェルヌッド氏は、2022年、傘寿を迎えた。同氏の研究は、言語社会学の泰斗 J. A. フィッシュマンや、言語管理理論のもう一人の提唱者で日本でも活躍した J. V. ネウストプニー氏と異なり、これまで日本であまり知られてこなかった（日本語訳があるのはイェルヌッド 2016のみと思われる）。この機に、言語政策・言語管理分野の研究における多大な貢献をされてきた氏の経歴と功績を、主に言語管理理論（氏の好まれる表現では「言語管理モデル」）の観点から振り返ってみたい。

イェルヌッド氏は、きわめて多彩な経験の持ち主である。故郷スウェーデンの大学では、言語学と経営学を学んでいる。専攻としてはかなり稀な組み合わせであるが、経営学の知見が、プロセスに注目する言語管理モデルの構想に影響を及ぼしたことは想像に難くない。また企画運営に関する氏の関心と知見は、その後の経歴にも生かされている。氏は、スウェーデンのウプサラ大学、ストックホルム大学、さらにオーストラリアのモナシュ大学、シンガポール国立大学、香港浸会（バプテスト）大学で教鞭をとった他、フォード財団の専門家として中東・北アフリカ諸国の大学でのアラビア語および英語の研究・教育の振興に従事し、言語政策や言語調査の立案・実行に関わった。またホノルル（ハワイ）の東西センターでアメリカおよびアジア諸国の政府や学術関係者の共同研究や研修の企画・運営にも携わっている。

研究対象は、談話における調整からコーパス計画としての用語の選定、少数言語保持から国家の公用語・外国語政策まで広範囲にまたがる。ハーグの国際司法裁判所専門家としてスーダンの民族と言語の問題にも取り組んでいる。現場から出発すること、微視から巨視まで広い範囲を視野に収めることといった言語管理理論の特徴は、氏の幅広い地域での活動と広範な研究対象、大学での研究にとどまらない実務経験の豊富さに裏打ちされているといえる。

具体的な事例を重視する言語管理理論が、普及という観点から持つ弱点は、重要な理論的な要点が、具体例と絡めて個別論文で散発的に提示されているがために、全体像がつかみにくいということである。これは、ネウストプニー氏にもあてはまるが、イェルヌッド氏の研究にもあてはまる。言語管理理論の網羅的な論文といえる Jernudd & Neustupný (1987)以降、両氏が一般的な形で理論の諸側面をまとめた著作がないのである。現在、言語管理研究会において、ネウストプニー氏の主要論文の選集が準備されているが、イェルヌッド氏についても、まとめて読める日が来ることを願いたい。それまでは、チェコの言語管理研究グループのウェブサイト <http://languagemanagement.ff.cuni.cz/ja/node/352> の文献一覧で検索するのが便利である。私見では、Jernudd 1991, 2000 & 2001, 2009 などに氏の言語観・言語政策観の要点がまとめられている。

以上、本稿では、言語管理理論の観点から氏の経歴の概略を追うにとどまったが、学術分野としての言語政策研究の草創期に関わった(Jernudd 1997, 2020)氏の功績は、言語管理理論の範囲にとどまるものではない。Rubin & Jernudd (eds.) (1971)、Rubin, Jernudd, Das Gupta, Fishman, Ferguson (eds.) (1977)といった、言語政策論の古典となった書籍を含めて、傘寿を迎えてなお精力的な活動を続

ける氏の論文を読むことは、今後も、言語政策論の足場を固めるために重要でありつづけるだろう。

(木村護郎クリストフ)

参考文献

- Jernudd, B. H. & Neustupný, J. V. (1987). **Language planning: for whom?** In L. Laforge (ed.), *Actes du Colloque international sur l'aménagement linguistique / Proceedings of the International Colloquium on Language Planning*. Québec: Les Presses de l'Université Laval, 69–84.
- Jernudd, B. H. (1991). *Lectures on language problems*. Delhi: Bahri Publications.
- Jernudd, B. H. (1997). **The (r)evolution of sociolinguistics. A personal retrospect of the early 1960s.** In Ch. B. Paulston & G. R. Tucker (eds.), *The Early Days of Sociolinguistics: Memories and Reflections*. Dallas: The Summer Institute of Linguistics, 131–138.
- イエルヌッド[Jernudd], B. H. (2016) (ミラー成三訳) **言語に対する行動** [Behavior toward Language] *GCI キャンパス・レクチャー* [GCI Campus lecture] 4, 44–51.
- Jernudd, B. H. (2009). **Epilogue. An apology for language management theory.** In J. Nekvapil & T. Sherman (eds.), *Language Management in Contact Situations: Perspectives from Three Continents*. Frankfurt am Main: Peter Lang, 245–252.
- Jernudd, B. H. (2000). **Language management and language problems: Part 1.** *Journal of Asian Pacific Communication* 10 (2), 193–203.
- Jernudd, B. H. (2001). **Language management and Language Problems: Part2.** *Journal of Asian Pacific communication* 11 (1), 1-8.
- Jernudd, B. H. (2020). **The origin and development of a language management framework.** In G. C. Kimura & L. Fairbrother (eds.), *A Language Management Approach to Language Problems: Integrating Macro and Micro Dimensions*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins, 31–48.
- Rubin, J. & Jernudd, B. H. (eds.) (1971). *Can Language Be Planned? Sociolinguistic Theory and Practice for Developing Nations*. Honolulu: The University Press of Hawaii.
- Rubin, J., Jernudd, B. H., Das Gupta, J., Fishman, J. A. & Ferguson, Ch. A. (1977). *Language Planning Processes*. The Hague: Mouton.